

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320068

研究課題名(和文)『世説新語』劉孝標注の漢魏六朝文献に関する総合的研究

研究課題名(英文)A comprehensive study of the books Liu Xiaobiao referred to in his notes on Shishuoxinyu

研究代表者

佐竹 保子(SATAKE, Yasuko)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：20170714

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,800,000円、(間接経費) 2,040,000円

研究成果の概要(和文)：1.以下の論文によって、汪藻「世説叙録」の訳注を初めて提示し、これを材料の一つとして『世説新語』およびその劉孝標注のテキストを書誌学的に考察した。「汪藻「世説叙録」訳注稿」。

2.以下の論文群によって、中国語学文学・中国思想宗教・中国歴史制度の各専門家の知見と調査力を糾合し『世説新語』劉孝標注の訳文と注釈を提示した。先行研究よりも正確さ・詳細さを増し、また、劉注所引文献が良質で吟味されていること、その語彙に当時の新たな価値を示すものが含まれることを証した。「『世説新語』劉孝標注訳注稿」(一)～(四)。

研究成果の概要(英文)：1.By our reading Wang Zao's Bibliographical Preface to Shishuo-xinyu, we bibliographically investigated into Shishuo-xinyu and Liu Xiaobiao's Notes on it, and published our translation and notes on Wang Zao's Bibliographical Preface, so that it will be available for the researches both home and abroad.

2.We published more exact translation provided with more precise and more detailed annotation of Liu Xiaobiao's Notes than its translations and annotations in past, for we were constituted by three researchers of Chinese language and literature, one researcher of Chinese philosophy and religion, and one researcher of Chinese history and political institution, all gathered our knowledge and capability to carrying out this research project successfully, and we have found out the descriptions quoted in Liu's Notes are qualitatively better than the similar descriptions of other books Liu didn't quote, and Liu's Notes contains some considerable words representing new values in that time.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：中国文学 中国哲学 東洋史 漢魏六朝 世説新語 劉孝標

1. 研究開始当初の背景

『世説新語』は、南朝宋代の劉義慶(403-444)のもとで編まれた志人小説で、漢魏晋時代の研究には不可欠の資料となっているが、『世説新語』それ自体に優るとも劣らず重要なのが、それに付された劉孝標(462-521)の注である。注の字数は本文をはるかに上回り、所引書籍は400余種、詩賦散文などの文学作品は70余首、しかもそれらの多くが佚書・佚文である。これらが当時の文学・言語・歴史・思想・宗教等を研究する上での宝庫であることは言をまたない。

しかし、『世説新語』本文についての研究は従来多いが、劉注に対する研究は、本文に較べれば微々たるものであった。近年では、徐震堦『世説新語校箋』(中華書局香港分局1987)、余嘉錫『世説新語箋疏』(上海古籍出版社1993)、楊勇『世説新語校箋 修訂本』(正文書局2000)、朱錫禹『世説新語彙校集注』(上海古籍出版社2002)等の周到な注釈本が出ているが、いずれも劉注に対する言及は十分ではなかった(なお、本研究遂行時に龔斌『世説新語校釋』上海古籍出版社・上海世紀出版股份有限公司2011が出版されたが事情は大きく変わっていない)。劉注の現代語訳に至っては、世界的に見ても、目加田誠氏の日本語訳『世説新語』(明治書院 新釈漢文大系7 1975-1978)があるばかりであった。

本研究に従事した者たちは、2004年から『世説新語』輪読会を開催し、その結果、劉注への検討が従来一貫して不十分であること、目加田氏の名訳もすでに30数年を経ていて間々誤訳が見られること、に気付いた。とくに当時の政治制度や官職、地理地名についての誤訳が目立った。このため、『世説新語』は文学分野の書と見られがちで目加田氏も中国文学研究を代表する碩学であるけれども、劉注を正確に理解するためには、歴史学の専門家が共同研究の根幹に参入している必要が痛感された。また経書・子書や清談の検討には、中国思想の専門家の参加が必須と見られた。かくて、文学語学・思想宗教・歴史学の分野の研究者が深く協力し合って複合的な研究を行う必要に迫られた。

それゆえ、文学語学については、研究代表者の佐竹を、思想宗教については研究分担者の齋藤を、歴史学については同じく研究分担者の川合を配して、総合的に劉注への検討を行うこととした。佐竹は博士論文「西晋文学表現論」で東北大学から学位を取得し、語意・修辞・文体等の専門家であり、『世説新語』とその注における評語である「賞」について『世説新語』の「賞」(『六朝学術学会報』第10集 2009)を発表したことがあった。川合は魏晋南北朝、およびそこから唐代を展望する政治史研究の第一人者であり、制度史や社会史にも深甚な造詣を持っていた。齋藤は、博士論文「唐宋禅宗史書の思想」で東北大学から学位を取得しており、中国の思

想関係の文献に詳しいのみならず、禅の語録の観点から劉注所引の六朝士大夫の清談を考察することができる素養をも持ちあわせていた。

ほかに、連携研究者の塚本は、魏晋六朝文学の専門家で、鮑照(414頃-466)についての論文を発表しており、鮑照は劉義慶に仕え、『世説新語』の編纂に加わったと考えられている文学者であった。同じく連携研究者の狩野は、博士論文「漢魏西晋楽府研究」で東北大学から学位を取得し、近年は「三国志学会」で活躍しており、劉注所引文献の多くが属する三国時代についての知見による貢献が期待された。

2. 研究の目的

(1) 中国五世紀前半に編纂された『世説新語』に対する六世紀初頭の劉孝標の注を、文学語学、思想宗教、制度歴史という三分野の研究者が糾合して、正確かつ複合的に読解する。

(2) 読解した結果を『世説新語』劉孝標注訳注』として発表する。

(3) 上記劉注に存する問題点を、文学語学・思想宗教・歴史学などの観点から、総合的多角的に析出して解明する。

3. 研究の方法

(1) 『世説新語』およびその劉孝標注に対して、書誌学的考察を行う。これは研究分担者の齋藤がおもに担当し、佐竹と川合がサポートに入る。

(2) (1)の結果を踏まえて『世説新語』およびその劉注を読解する上での底本と、参照すべき本とを定め、収集する。これは研究代表者の佐竹がおもに担当し、川合と齋藤がサポートに入る。

(3) 劉注のうちのどの部分を誰が担当し、それぞれの草稿をいつまで完成させるかを定め、作成を開始する。

(4) 研究メンバー全員に公開されるメール会議を立ち上げる。劉注訳注を作成する上で生ずる問題点を、メール会議に提示して情報を交換する。文学語学に関してはおもに佐竹が、思想宗教に関してはおもに齋藤が、制度歴史に関してはおもに川合が、中心的な助言者となる。必要な場合はそれぞれが、日本・中国・台湾等の専門研究者を紹介する。

(5) 作成した劉注訳注草稿を、(3)で定めた日に、添付ファイルの形でメール会議に提示し、他のメンバーが検討する。必要に応じて集合日を定め、実際に面会して検討する。検討を通して草稿を練り上げる。

(6) (5)で練り上げた原稿を、『東北大学中国文学語学論集』等に投稿する。

(7) 掲載された訳注稿の抜刷を、識者に配布して忠告や助言を仰ぎ、それらを生かして修訂する。

(8) 問題点を解決するに至った経過や、なお残された問題点について、各自が研究ノートや論文の形にまとめる。

4. 研究成果

(1) 齋藤が中心となって論文「汪藻「世説叙録」訳注稿」を発表し、汪藻「世説叙録」の訳注を初めて作成した。これを材料の一つとして、『世説新語』およびその劉孝標注のテキストを書誌学的に考察し、読解の底本を定めた。汪藻所掲の種々の家蔵本を検討し、とくに晁文元の一族については、その六世、七世の孫の蔵書に説き及び、Peter K. Bol の論文 *This Culture of Ours* を参照した。

(2) 佐竹・『世説新語』劉孝標注研究会による『世説新語』劉孝標注訳注稿(一)~(三)と、川合・『世説新語』劉孝標注研究会による『世説新語』劉孝標注訳注稿(四)を刊行した。訳文は、「2. 研究の目的」「3. 研究の方法」に記したとおりに、中国語学文学・中国思想宗教・制度歴史の専門家の知見と調査能力を総動員して吟味をはかった。さらに、佚文・佚書の多い劉注所引文献については、『隋書』経籍志で確認する基礎作業の上に、所引文献の文章に類似した記述や関係する記述を種々の現存文献から探索し収集する作業を行い、それらを注に付した。そのため注は膨大なものとなった。

(3) (2)の成果を関係する識者に配った結果、おおむね好評で、複数の研究者から「劉注の訳のみならず、『世説新語』本文の訳も掲げてほしい。これだけの基礎作業を行っているのだから、本文についても従来と異なった質が期待できるかもしれない」という提言があった。しかし、(2)に記したように、劉注の訳注のみで、当初予定の紙幅を大幅に超過していたため、これ以上の紙幅を費やすことは不可能で、今回は『世説新語』本文の訳出は断念せざるを得なかった。

(4) (2)の作業から得た個々具体的な成果について、そのごく一部のみを紹介すれば、以下のようなものである。

従来の解釈の是正

- 1 德行篇第 7 条劉注所引海内先賢伝にある「(陳謚)司空掾公車徵」について。旧訳は「司空掾が官車を出してむかえた」。しかし『後漢書』とその注から、「司空府の掾になれという招きにも、公車府のお召しにも応じなかった」が妥当であることが分かった。

この点は中国の注釈本にも明記がなく、本研究開始後に出版された龔斌『世説新語校釋』も、公車を「漢代官署名」とし、陳謚が司空掾になったことを記すのみであった。

- 2 德行篇第 47 条劉注所引鄭緝孝子伝にある「当用此輩人」について。旧訳は「きっとこの人たちを登用するのですよ」。しかし「此輩」は、本研究会が当時までの文献に残された用例を収集して検討する限り、自らを上位と意識する者が下位の者を指す語で、蔑称に近いことが明らかとなった。該例は「孝子伝」にあり、「聡明」な貴婦人が官吏である息子に対して「鄰居」する孝行息子を称揚する場面で用いられているのであるが、旧訳のような「この人たち」よりも「こうした連中」という語感に近いことが分かり、強烈な身分意識がうかがわれる文脈と判断された。

- 3 言語篇第 1 条劉注所引文士伝にある「召署令史」について。旧訳の注は「令史 尚書の郎の下に属し、庶務をつかさどる下級役人」。しかし、五井直弘「後漢時代の官吏登用「辟召」について」(同氏『漢代の豪族社会と国家』所収、名著刊行会 2001)の論証に拠れば、「召」したのは尚書の役所ではあり得ず、大將軍が自らの掾属として招いたものであることが分かった。

- 4 言語篇第 10 条劉注所引典略にある「輸作部」について。旧訳の注は「作部 製作を掌る役所、つまり尚方のこと」。中国においても、楊勇『世説新語校箋』は「尚方」、最新の龔斌『校釋』も「送往工場作坊」とするのみである。本研究会は、『後漢書』桓帝紀所収の詔にある用例を探し出すことによって、作部とは囚人が徒刑に服す場所であることを明示した。

劉注所引文献の良質性の証明

- 1 德行篇第 12 条劉注所引の「五經要義」について。楊勇『校箋』は、唐の陸徳明『經典釈文』の「礼記音義 礼運」を引いて、劉注所引「五經要義」が挙げる文と逆だとする。しかし後漢の応劭『風俗通義』所引「礼伝」は劉注所引「五經要義」と同じであり、初唐の類書である『北堂書鈔』『初学記』『芸文類聚』も『風俗通義』を引いており、「五經要義」と同様であった。中唐の『通典』に至って両説併記となっている。つまり初唐までは多く「五經要義」の説が行われていたと推測され、劉注所引文献は古い形を残していることが分かった。

- 2 德行篇第 31 条劉注所引「晋陽秋」にある「(庾亮)侍従父琛」について。中国の注釈書は古くから「庾琛は庾亮の父であり、従父(おじ)ではないから、従は衍字である」と主張している。しかし、劉注所引文献とや後の『宋書』に、「侍従」を「付き従う」

意の類義複合動詞で用いる例が存在し、しかも『宋書』の場合は息子が父に「侍従」するという、劉注の例と同じケースであることがつきとめられた。かくて「従」は衍字ではなく、劉注所引「晋陽秋」の一文が正しいことが確認された。

- 3 德行篇第 47 条所引「晋安帝紀」所載の吳隱之の詩について。該詩はほかに、『初学記』所引「晋中興書」、『北堂書鈔』所引「晋中興書」、『芸文類聚』所引「王隱晋書」、現行『晋書』に収められており、すべて少しずつ異なっている。本研究会がすべての内容を考察した結果、劉注所引「晋安帝紀」所収詩が、もっとも周到に構成され、読み手を誤読に至らしめないテキストであることが明らかとなった。劉注は、他の箇所では「晋中興書」や「王隱晋書」を引用している。しかし、該詩に限っては「晋安帝紀」を引用している。つまり「晋安帝紀」所載の詩がよいテキストであることを意識して選定したものと推測された。

劉注所引文献の人物評語への検討

- 1 人物評語については、『世説新語』本文のそれを検討した先行研究はあるが、劉注にまで及んだ例は少なく、用例を探索・収集して正確な解釈につとめた。その結果、以下の人物評語の内実を明らかにした。

「精妙高峙」「處約味道」「抗志清妙」
「才識博達」「識度」「恬静」「宏達不羈」
「自然高邁」「亮直清方」「行己取與」
「朗俊機警」「清慎平簡」「卓犖不羈」
「高栖浩然」「淵雅有德量」「端拱凝然」
「淹通有理識」「弘粹通遠」「温雅融暢」
「簡貴」「沖默」

- 2 また、以下の人物評語は魏晋以前の文献に用例が見当たらなかった。いずれもプラス価値を帯びる語で、魏晋以前に常套語化していなかったとすれば、魏晋の頃の新たな価値観を体現するものと判断される。これらの評語をさらに検討することで、当時の新たな価値を浮き彫りにすることができる見込みが得られた。

「清言」「恬暢」「道徽高扇」「融暢」
「情好」「率易」「才悟」「貴峻」「格正」

(5) 以上のように劉注の正確な読解のために、中国語学文学・中国思想宗教・中国歴史制度の各専門家の知見と調査力を糾合して、劉注所引文献に類似する記述や関係する記述を現存文献から探索・収集し、また劉注所引文献の用いている語については、当時及びそれ以前の用例を収集し検討した結果、所期の目的どおりに、かなりの程度正確な読解に到達し得たのみならず、劉注所引の文献が良質でよく吟味されていること、またその語彙には当時の新しい価値観を表すものが一定程度含まれていること、この 2 点も確認する

ことができた。さらに、上記の劉注の特質は、劉注に潜在する価値のほんの一部であろうことも推測できた。すなわち、劉注はすでに 1500 年以上存在する資料であるけれども、本研究によって、その多様で貴重な価値の一部とその潜在的な重要性を新たに発見し明示しえた。この発見と明示は、学界に対して、『世説新語』劉注研究への参入を促す呼び水となっていよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計 21 件)

- 1 齋藤 智寛、『世説新語』劉孝标注研究会、汪藻「世説叙録」訳注稿、東北大学中国語学文学論集、査読無、第 18 号、2013、85-104、
- 2 川合 安、『世説新語』劉孝标注研究会、『世説新語』劉孝标注訳注稿(四)、東北大学中国語学文学論集、査読無、第 18 号、2013、25-57
- 3 佐竹 保子、謝靈運「遊南亭」詩における「賞心」「惟良知」解釈とのかかわりにおいて、集刊東洋学、査読有、第 109 号、2013、23-41
- 4 佐竹 保子、李清照と趙明誠、『人文社会科学講演シリーズ 男と女の文化史』東北大学出版会、査読有、2013、75-121
- 5 狩野 雄、謎の蘇合香、未名、査読無、第 31 号、2013、1-36
- 6 塚本 信也、「佯狂」とその周辺、集刊東洋学、査読有、第 108 号、2013、1-22
- 7 佐竹 保子、『世説新語』劉孝标注研究会、『世説新語』劉孝标注訳注稿(三)、東北大学中国語学文学論集、査読無、第 17 号、2012、1-74
- 8 佐竹 保子、謝靈運詩文中の「賞」和「情」以「情用賞為美」句的解釈為線索、蔡瑜編『迴向自然的詩学』國立臺灣大學出版中心、査読有、2012、167-195
- 9 川合 安、南朝史からみた隋唐帝国の形成、唐代史研究、査読無、第 15 号、2012、3-21
- 10 齋藤 智寛、仏法の埋没、集刊東洋学、査読有、第 107 号、2012、48-67
- 11 狩野 雄、わからないから、書いてみる、相模国文、査読無、第 39 号、2012、152-158
- 12 狩野 雄、匂い立つのか、響くのか 周瑜の「美」をめぐって、『林田慎之助博士傘寿記念 三国志論集』汲古書院、査読無、2012、59-90
- 13 佐竹 保子、『世説新語』劉孝标注研究会、『世説新語』劉孝标注訳注稿(二)、東北大学中国語学文学論集、査読無、第 16 号、2011、41-56
- 14 塚本 信也、芻蕘の諸相、東北大学中国語学文学論集、査読無、第 16 号、2011、290-273
- 15 狩野 雄、「戀」する潘岳 漢魏西晋詩

- 歌に見える「戀」字と潘岳「悼亡詩」について、東北大学中国語学文学論集、査読無、第16号、2011、272-245
- 16 佐竹 保子、謝靈運詩「心賞」考、集刊東洋学、査読有、第105号、2011、21-42
- 17 川合 安、唐代初期の「土族」研究、集刊東洋学、査読有、第105号、2011、80-92
- 18 齋藤 智寛、荷沢神会の見性論とその変容、『三教交渉論叢続編』(道気社) 査読無、-、2011、193-217
- 19 齋藤 智寛、無臺明鏡照心地、『佛教文献與文学』(佛光文化事業有限公司) 査読無、-、2011、60-91
- 20 佐竹 保子、『世説新語』劉孝標注研究会、『世説新語』劉孝標注訳注稿(一) 東北大学中国語学文学論集、査読無、第15号、2010、1-37
- 21 佐竹 保子、日本近半世紀「竹林七賢」研究状況、江建俊主編『竹林學的形成與域外流播』里仁書局、査読有、2010、49-101

〔学会発表〕(計 11 件)

- 1 齋藤 智寛、『楞伽師資記』に見える実践と思想、仏教史学会第64回学術大会、2013年11月16日、龍谷大学大宮学舎
- 2 川合 安、南朝の土庶区別について、東北史学会、2013年10月13日、東北大学
- 3 齋藤 智寛、『楞伽師資記』の禅法、日本中国学会第65回大会、2013年10月12日、秋田大学教育文化学部3号館
- 4 佐竹 保子、九条家本『文選』について、歴博国際シンポジウム、2012年11月3日、千葉県佐倉市国立歴史民俗博物館講堂
- 5 塚本 信也、「狂」の諸相、東北中国学会第61回大会、2012年5月26日、東北大学
- 6 齋藤 智寛、石頭一枝、第82回禅学研究会学術大会、2011年11月26日、花園大学
- 7 佐竹 保子、日本1937年至2009年阮籍嵇康研究状況、北京大学国際漢学家講演会、2011年9月8日、北京大学化学北楼(中国)
- 8 川合 安、南朝史からみた隋唐帝国の形成、唐代史研究会夏期シンポジウム、2011年8月22日、神奈川県箱根町「強羅静雲荘」
- 9 狩野 雄、香りと響き 二陸の詩歌作品に見える感覚表現の一斑、六朝学術学会第22回例会、2010年11月20日、二松学舎大学
- 10 齋藤 智寛、仏性を見るということ、第4届中日仏学会議、2010年10月24日、人民大学(中国北京市)
- 11 佐竹 保子、李善注「事無高翫、而情之所賞、即以爲美」考、中央研究院訪問学者講演会、2010年9月28日、台湾中央研究院文哲研究所2階会議室(台湾)

〔図書〕(計 1 件)

- 1 . 大野晃嗣、齋藤 智寛、陳青、渡辺健哉、東北大学附属図書館所蔵中国金石文拓本集：附関連資料、査読無、389頁、2013年

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐竹 保子 (SATAKE, Yasuko)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：20170714

(2) 研究分担者

川合 安 (KAWAI, Yasushi)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：30195036

(3) 研究分担者

齋藤 智寛 (SAITO, Tomohiro)
東北大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：10400201

(4) 連携研究者

塚本 信也 (TSUKAMOTO, Shinya)
東北学院大学・教養学部・教授
研究者番号：00275603

(4) 連携研究者

狩野 雄 (KANO, Yu)
相模女子大学・学芸学部・教授
研究者番号：80333764